

コツコツ

2022.9.7

こんなことを言った方がいる。「成功のコツは2つある。それは『コツコツ』」野田中学校は、学校のスローガンとして「凡事徹底」を掲げている。この凡事徹底とコツコツは同じ人物の言葉である。凡事徹底のほうは、ここ数年で世の中はかなり浸透してきている。

問われるのは内容より結果という成果至上主義ともいべき世の中にあって、結果よりもプロセスを大切にすることでビジネスの道を切り拓いていく。普通の人たちが雑事と片づける細々としたことを徹底して行い、追求すること、これがすなわち凡事徹底である。

例えば、会社、トイレ、車、道路をきれいにする。人々が「そんなことをやっていたって何もならないじゃないか」「そんなことをやっていたのでは人に遅れてしまう。この競争社会の中で勝っていけない」と、おろそかにしがちなことを極めていくという考え方である。そこには、平凡なことを非凡に努力することの大切さがある。

まわりの人を見渡してみる。大人でも生徒でも、平凡に思えることをコツコツと積み上げている人がいる。真似できない。当たり前のことを当たり前にする。これがなかなかむずかしい。かえって生徒から教えられることもある。

自分の生活を振り返ってみる。コツコツと続けている平凡なことがあるかということ、残念ながらない。やろうとしたことは何度かある。だが、続かない。なぜ、続かないのか。わからない。どうやら、それができるような人間ではないようである。それだけはわかった。やり始めたとしても続かないことは、自分でもよくわかっている。だから、できる人はすごいと思う。

凡事徹底を貫くことができる人は、きっと「小さく生きて大きく遺す」ことができる人である。人にはタイプがあり、生き方も千差万別である。どれがよくてどれがよくないとは、一概には言えない。だが、コツコツと積み上げてきたものが大きいのは確かであろう。

学校の先生で考えてみる。先生方が積み上げてきたものと言えば、真っ先に浮かぶのは授業である。30年以上、教壇に立っていれば、約10000時間以上は授業をやっているはずである。かなりの数である。10000時間もやれば、プロ級の腕前になっていてもおかしくはない。ところが、そうはいかない。そこが、授業の難しさであり、奥深さである。

授業は、凡事ではない。平凡なことではない。だから、コツコツにも凡事徹底にも当てはまらない。その証拠に、「そんなことをやっていたって」の「そんなこと」には該当しない。

凡事とは、もっと簡単なことではあるが、やることにそんなに価値を見い出せないことであろう。表現を変えれば、面倒なこと、面倒くさいことである。だから、普通の人では続かない。それを面倒くさがらずにやり続けることで、価値が出てきて大きく遺すことにつながる。

中学生でも、コツコツやり続けることができる生徒はいる。そういった生徒の努力を認め、将来の姿を楽しみにしたい。それが凡事徹底を掲げる学校ができることである。